

2022 年度活動報告

はじめに

基本方針「チャリティショップの新たな機能を摸索する。」

昨年 2 月 24 日に始まったロシアのウクライナ軍事侵攻は長期化し、未だ和平には程遠い状況になっています。世界は歴史的な高インフレに直面し日本経済は低迷。円相場は 32 年ぶりの安値をつけました。そのため、エネルギーや原材料などの価格が高騰し、輸入コストは高くなり物価高が続いています。

この影響は、私たちが支援として取り組むフェアトレードや復興支援品等の仕入れ価格の値上げ、水道光熱費等の経費負担増として事業を直撃し、必要な備品購入を翌年度に見送る等収支のやりくりで神経を注ぐ一年となりました。

長引く日本経済の停滞は、弱小の中小企業や NPO の死活問題にもつながる厳しい現実です。「WE ショップ厚木 1 号店」も複数スタッフが諸事情によって休みを余儀なくされるなどショップ運営が容易ではありませんでしたが、関係者のボランティアな協力のおかげで経費を抑え、最後まで順調に運営出来たのは「WE ショップ厚木 1 号店」ならではの「人」の力だと確信しています。

不要になった品物を社会に役立ててほしいと持ってこられる寄付者の皆さま、その寄付品を購入して下さるお客様、様々な形でボランティアとして協力して下さっている方たちがおおぜいいらっしゃいます。その方たちと日々楽しく活動しながら、これからも「リユース・リサイクル」で資源の有効活用に貢献し、その収益で得られた支援金が必要な人たちに届くよう活動していきます。

I 特定非営利活動に係る事業

1 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

[日時]	通年
[場所]	神奈川県内及び近隣都県
[従事者人数]	32人(理事、スタッフ、ボランティア)
[受益対象者]	市民
[支出]	16,204,823円

1-1) リデュース活動の推進

*引き続き啓発ポスターを掲示し、買い物袋持参への協力を呼びかけた。

1-2) リユース活動の推進

*長引くコロナ禍において感染防止対策を徹底しながら、チャリティショップ「WE ショップ厚木1号店」事業を継続し、一般市民等から寄付された衣類や日用雑貨等を販売し、環境への負荷が少なくなるようリユースを進めた。

2022年度活動実績表 人数は延べ人数

営業日数	277日
寄付者数	3,195件 (内新規207件)
顧客数	18,948人
売上高	18,904,147円

* 寄付品募集ちらしのポスティング強化

・年度初めに会員から「ポスティングボランティア」を募り、毎月少しずつ地域配布を進め、店頭配布も含め10000枚配布を終了した。

* 「WE ショップ・ステーション」開設の協力

・森の里地区の一般社団法人「ぐるっと」さんが、団体事務所を「WE ショップ・ステーション」として開設に協力して下さった。4月以降森の里地区限定で寄付品を集めて下さり、新規寄付者の増加につながった。

* 「オンラインショップ」の検討

・今年の方針にかかっていたが、毎月の事業の継続に迫られ、年度途中理事会で実施可能かどうかの十分な討議検討をしないまま年度末を迎えてしまった。大きな反省点である。

* 着物文化への関心を広げる企画

・「着付け教室」は4月に3回開催したが、新型コロナウイルス感染拡大のため、その後は開催を見送った。

・11月に「着物フェア」 2月に「着物全品半額セール」を開催した。

1-3) リサイクル活動の推進

* 寄付された品物の中でリユースできなかった衣類等をリメイクボランティアの「おりひめ」や布ぞうり製作ボランティアに託し、リサイクルを進めた。

- ・リメイクフェアが2回開催され、6万円の寄付金をいただいた。
- ・布ぞうりは、194足が192,500円の寄付金につながった。

* リユースできなかった衣類等を故繊維業者に託し、リサイクルを進めた。

搬出袋数 395袋 (≒2765kg)

- ・6/15 故繊維業者：ナカノ(株)秦野工場を見学した。(参加者スタッフ：5名)

* リユース出来なかった綿製品は、必要としている高齢者福祉事業所等に45リットル袋110円で提供しリサイクルを進めた。

提供した綿製品 19袋

1-4) 広報活動

* 寄付品募集チラシやローカルニュース発行と配布、店内広報の充実、ソーシャルメディアの活用を進めた。

(1) 寄付品募集チラシの発行

- ・5月 2022年度版寄付品募集チラシを10000枚作成。

(2) ローカルニュースの発行

「WE21 厚木ニュースNo.65」 発行日 2022年7月 500枚発行

「WE21 厚木ニュースNo.66」 発行日 2023年2月 500枚発行

(3) ソーシャルメディアの活用

- ・フェイスブックにリアルタイムにショップ情報を載せるよう努めた。
- ・ホームページでは、支援実行報告やニュース発行等を迅速にアップし、情報開示に努めた。

2 アジア等における市民、とりわけ女性の生活の向上と自立のための活動を支援する事業

[日時]	通年
[場所]	神奈川県内及び近隣都県
[従事者人数]	28人(理事、スタッフ、ボランティア)
[受益対象者]	市民
[支出]	4,508,625円

2-1) 国内外の寄付支援事業

(1) 国内 NPO、NGO の海外プロジェクト支援の実施

支援総額：2,093,358円(店頭募金含む)

支援国等	NPO、NGO 団体名	支援活動内容	支援金額
カンボジア	認定 NPO 法人 「幼い難民を考える会 (CYR)」	「村の幼稚園」地域での 継続支援	841,070円※
ネパール	NPO 法人「ベルダレルネーヨ」 (ネパリ・バザーロ)	カンチャンジャンガ紅茶農園 周辺の子どもたちへの高等教育 支援	80万円
ミャンマー	公益社団法人 「シャンティ国際ボランティア会」	ミャンマー難民キャンプの 図書館事業	10万円
ウクライナ	NPO 法人「ADRA JAPAN」	ウクライナ人道支援事業	267,005円 (店頭募金 = 47,105円含む)
トルコ・ シリア	NPO 法人「CODE 海外災害援助市 民センター」	トルコ・シリア大地震 緊急支援事業	85,283円 (店頭募金 = 35,283円含む)

※ = 「貧困なくそうキャンペーン」店頭募金 41,070円を含む

(3) 国内 NPO、NGO の国内の寄付支援

支援総額：314,922円(店頭募金を含む)

支援地域	NPO、NGO 団体名	支援活動内容	支援金額
東京都及び関東 近辺	認定 NPO 法人「シェ ア＝国際保健協力市 民の会」	在日外国人支援事業 外国人母子の保健医療サービスへの アクセス改善プロジェクト	10万円

宮城県 気仙沼市	NPO 法人 「プロジェクト K」	東日本大震災復興支援 気仙沼地域住民の生活支援(被災者交流事業の継続、母親対象の子育て支援事業、いのちの大切さを伝える事業)	100,132 円 (店頭募金＝ 10,132 円含む)
福島県 郡山市	甲状腺ガン支援グループ・あじさいの会	東日本大震災復興支援 福島県内の小児甲状腺がん患者と家族及び支援者へのサポート事業	114,790 万円

- ・書き損じはがき/未使用はがき 247 枚を「幼い難民を考える会(CYR)」へ寄付した。
- ・外国コインを「ユニセフ」に寄付した。

(4) 東日本大震災被災地「気仙沼の産品」取り扱いによる復興支援

年間仕入れ金額: 1,571,681 円

2-2) 国際理解を深めるための事業

(1) フェアトレードの推進

「もうひとつの海外支援」としてフェアトレード品の仕入れを行い生産者を支援した。

フェアトレード品 年間購入金額 455,729 円

フェアトレード品仕入先団体別購入金額 ()内は取り扱い商品の生産国、主な品

ネパリ・バザーロ (ネパール紅茶、カレー、他)	第三世界ショップ (グアテマラの珈琲、インドネシアの塩、チョコレート、他)
89,873 円	365,856 円

(2) WE 講座の開催

- ・WE 講座として広く外に向けて参加を呼び掛ける企画は出来なかった。
- ・12 月 14 日 Zoom による「あじさいの会」の報告会を開催した。(参加者：理事 10 名)
- 3. 11 原発事故から 12 年が経過した現在も、甲状腺がんで苦しむ福島の若者たちに寄り添う活動を理解する機会となった。その概要は厚木ニュースNo.66 号に掲載した。

(3) 「貧困なくそうキャンペーン」の開催

- ・継続支援先「認定 NPO 法人 幼い難民を考える会」がカンボジア村の幼稚園で子どもたちの栄養補助のために実施しているおやつ(ゆで卵)への募金活動を実施した。ポスター掲示、ミニチラシ配布等で活動への理解と募金への参加を呼び掛けた。
- ・募金報告を兼ねて、概要を厚木ニュースNo.66 号に掲載した。

(4) 支援先との交流事業

- ・コロナ禍のため実施しなかった。

3 その他、第3条の目的達成に必要な事業

[日時]	通年
[場所]	神奈川県内及び近隣都県
[従事者人数]	28人(理事、スタッフ、ボランティア)
[受益対象者]	市民 WE21 ジャパン・グループメンバー
[支出]	301,445円

3-1) 組織運営

(1) 理事会の開催

- ・原則月1回理事会を開催した。
- ・2023年4月25日で活動開始から25年目となるので、1月理事会で「25周年記念誌編集チーム」を設置し、次年度記念誌発行の準備を開始した。(2/6 3/1 3/29)

(2) 会員

法人会員にはニュースの送付等を通じて情報を開示した。

会員数 期首 75名 (新規1名) 期末 76名

(3) ボランティアミーティング及びスタッフミーティング

ボランティアミーティング及びスタッフミーティングを開催し情報を共有。
課題の整理、活動への提案につなげた。

ボランティアミーティング：6回開催 スタッフミーティング：12回開催

(4) 地域とのつながり

- ・「KTC おおぞら高等学院厚木キャンパス」の生徒の受け入れ
昨年引き続きコロナ禍のため実施しなかった。
- ・「ヒューマンサポートネットワーク厚木(HSN)」への参加
新型コロナウイルス感染防止対策のため今年は運営会議が開催出来なかった。
年間を通じてフェアトレード品の共同購入にご協力いただいた。

購入実績 180,990円

※ご協力いただいた各事業所の皆さま

ケアセンターあさひ 保育園ViVi おひさまっこ保育園
学童保育なないろのたね くれよん保育室

(5) 見学等の受け入れ

- ・4/1 東京エコメッセから3人
JCSN 共同代表新田さん(四国の「セカンドハンド」元代表)

- ・全国チャリティショップネットワーク (JCSN) からの依頼
 - 9/5 東京のチャリティショップ「UZU」からの見学を受け入れた。
 - 12/19 動画撮影の協力をした。

(6) WE21 ジャパン・グループ等との連携

- ・今年度は実会場でのグループ会議が開催されたが、代表の都合があわず、11/18 県央地区主催の会議のみの出席となった。
- ・WE21 ジャパン地域 NPO の見学を受け入れた。
 - 個人：9/29 WE21 ちがさきメンバー WE21 ざまメンバー
 - 組織：7/20 WE21 いずみ 11/25 WE21 海老名 1/14 WE21 青葉
 - 1/16 WE21 こうほく